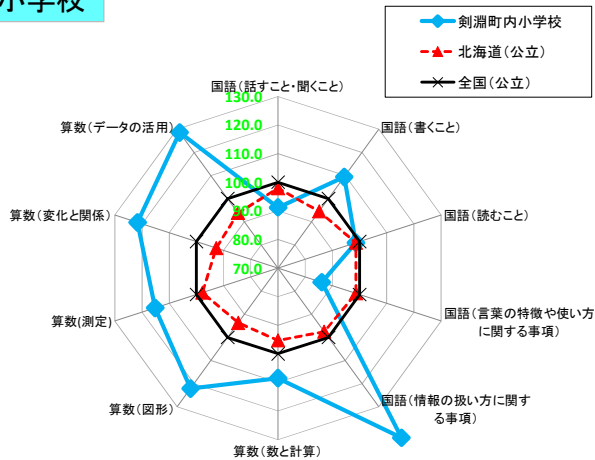


■ 剣淵町内の状況及び学力向上策 （小学校数:1校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

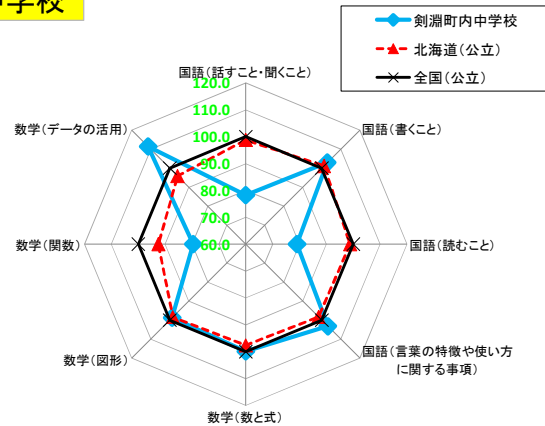
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



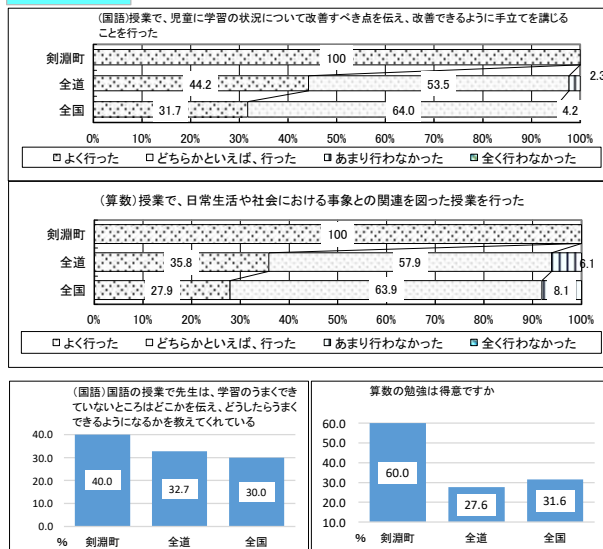
中学校



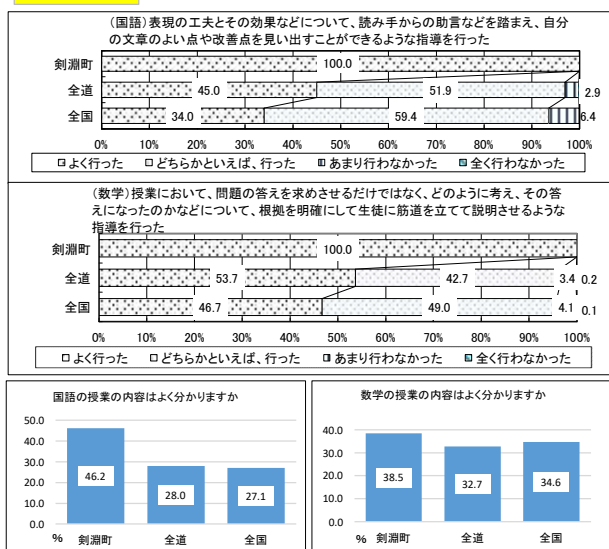
	【平均正答率・平均IRTSコア】※中学校英語は平均IRTSコア		※中学校英語は平均IRTSコア		
	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
剣淵町	61	66	60	56	535
北海道(公立)	60	54	63	55	490
全国(公立)	60.9	56.4	63.9	57	499

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、児童に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることができるように指導を行ったことにより、国語の授業で、先生は学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれると回答した児童の割合が全国及び全道を上回り、国語の3領域1事項で全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の学習に自信がもてるようになり、算数の勉強は得意だと答えた児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の5領域全てで全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容がよくわかると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の3領域1事項で全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、根拠を明確にして生徒に筋道を立てて説明させるような指導を行った結果、数学の授業の内容がよくわかると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の4領域1事項で全国及び全道を上回ったと考えられる。

【剣淵町の学力向上策】

- ◎ 漢字検定、英語検定、数学検定などの受検料補助や受検会場の確保など教科検定支援事業の推進
- ◎ ICT端末上で使用可能な学習ドリルを活用した授業の推進
- ◎ 剣淵町小中高連携教育協議会教科部会における相互授業参観や授業改善に向けた部会協議の推進

【Webページ】

二次元コード
貼付場所